

平成25年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	体育の学習・教授支援ツールとしてのICT活用に関する実証的研究
------	---------------------------------

研究代表者

氏名 鈴木直樹	所属 芸術・スポーツ科学系	職名 准教授
------------	------------------	-----------

研究分担者

氏名	所属	職名
齋藤祐一	学芸大学附属高校	教諭
上野佳代	学芸大学附属小金井中学校	教諭
大熊誠二	学芸大学附属竹早中学校	教諭
笠松具晃	学芸大学附属小金井小学校	教諭
成家篤史	帝京大学	専任講師
石塚諭	お茶の水女子大学附属小学校	教諭
河野素乃	所沢市立所沢小	教諭
阿部隆行	東京都立永山高	主幹教諭

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

本研究では、ICTを活用した体育授業の実践可能性を探り、実践を構築し、その成果を検証することが目的であった。研究を進めるにあたり、「授業実践検討委員会」「先行研究・先行実践収集調査小委員会」「コンテンツ作成小委員会」「システム開発小委員会」「ICT活用マニュアル作成小委員会(冊子&パンフレット)」で研究を分担した。その結果、160以上にも及ぶ国内外の先行研究・先行事例を収集でき、それを検討した上で、ボールゲームにおける授業づくりにICTを活用することとした。授業実践検討の結果、戦術的学習にICTを活用し、進めることとし、ICTの活用を「①活動提示場面」「②問題解決場面」「③学習評価場面」とすることとした。また、iPad-miniと電子黒板を連携させて活用することとし、活動提示用のデジタルコンテンツの開発と問題解決場面のデジタルコンテンツの開発を行った。このコンテンツを活用し、中学校2校でネット型の授業で検証した結果、ICTの活用によってマネジメントの現象が認められ、活動時間を確保する効果があることが明らかになった。この効果が評価され、これを基にしたデジタルコンテンツが平成27年度・平成28年度に製品化されて発売されることになった。また、デジタルコンテンツを問題解決場面で活用した結果、特に意思決定能力の高まりに大きな影響を与えることが明らかとなり、戦術的な学習の指導を容易にさせるツールとしての可能性を見出すことができた。さらに、学習評価場面で、学習者がiPadを使って電子黒板と連携させて提出させたり、その映像を表示してまとめて利用したりした。この取り組みは、研究報告会時に実施した模擬授業を参観した参会者から大きな反響を得た。実際に、指導と評価を一体とした実践を行う上での有効性については確認できた。一方で、操作が煩雑であり、教師の負担が大きいことも課題として残され、コンピュータトラブルが起きたときの対応に時間がとられてしまうことが大きな問題として顕在化された。そこで、以上のことを踏まえ、この研究を継続させ、ICTの活用事例を増やすと共に、その一般化に向けたマニュアル作成に取り組んでいくことによって、課題を解消し、体育授業におけるよりよいICT活用の取り組みを進めていきたいと考える。

研究成果発表方法

[発表論文名(口頭発表を含む)、氏名、学会誌等名(投稿中・投稿予定・執筆中)を記入する。]

※本経費を用いて、報告書(冊子等)を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。
なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

- 1) Yokoyama, A.,(2013) Incorporating the i-Pad as assessment tool into physical education.日本スポーツ教育学会第33回大会.(ポスター発表:2013年10月)
- 2) 夢中になってプレイしながら学ぶ、「ゲーム中心・プレイヤー中心」のボールゲームの指導方法講座—ICTを活用したボールゲームの授業づくり—の開催(2013年12月)
- 3) Effect OF THE IMPLEMENTATION THE ICT FOR PROMOTING THE TACTICAL AWARENESS IN TGFU. 2014 AIESEP World Congress at NZ (ポスター発表:2014年2月)